

令和5年度 第1回振興審議会 議事録

- ◆日時 令和5年7月21日(金)午後2時00分～午後4時10分
- ◆場所 市役所4階 403会議室
- ◆委員 出席14名 欠席4名
- ◆事務局 みらい戦略課長、同補佐、企画調整係長ほか事務局 1名

〈次第〉

*辞令交付(南陽市振興審議会条例第3条第2項により市長が任命)

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 委員自己紹介(名簿順)
- 4 会長互選(南陽市振興審議会条例第4条により)
- 5 会長代理氏名(南陽市振興審議会条例第4条第3項により)
- 6 報告
 - 1)第2期南陽まち・ひと・しごと創生総合戦略～令和4年度末実績報告について～
 - 2)その他
- 7 その他
- 8 閉会

《議事録》

6報告 1)第2期南陽市まち・ひと・しごと創生総合戦略～令和4年度末実績報告について～

(黒澤光高委員)

・南陽市総合戦略は令和3年度から令和7年度までということで2年が終わったところだが、市として順調に進んでいるのか。また、進んでいる進んでいないの要因はどのように考えているのか。

・本社機能移転に関して、「コロナ禍のため当初見込みのあった事業所において移転を見合わせている状況」(資料1-P1-No.6)と記載があるが、前向きな状況での保留なのか、実態を教えてください。

(事務局)

・総合戦略第2期が2年経過し、この間新型コロナウイルスの影響で様々な活動が制限された中で、それが数字にも表れていた。ただ、令和4年度後半、また今年度スタートして、全庁的にコロナ禍前に戻そうという風潮が見られる。数字的には物足りないと感じる部分があるが、これから新たなスタートということで、色々な取り組みを力強く進めていきたいと思っている。そういう意味では、これからまだまだ挽回できる部分が多くあると感じている。

・本社機能移転に関しては、実績として数字としては表れていないが、商工観光課を中心に定期的に首都圏の企業に訪問したり、市長が上京の際、色々な企業に足を運んで情報交換を行っている。実際の移転につなげるには、少し時間をかけて引き続き取り組んでいきたいと考えている。

(黒澤光高委員)

・ふるさと納税について、南陽市は13市で最下位ということで、魅力ある産品が豊富にあるなかで、情けない結果だと感じる。

(事務局)

・商工観光課でも力を入れているところではあるが、ここ最近では異常気象の影響で果樹が不作であった。果樹だけではなく、様々なものを返礼品として、これから開発していく必要性もあると感じている。

(山口正雄委員)

・産業団地のスペースがゼロという状態が何年も続いている。なかなか県評価がはっきりせず進めていない状況だと思う。

・南陽市の人口ピラミッドを見てみると、20代が1番少ない。進学して都会に行く、そのまま地元に戻ってこないという現状。若者にあった職種、働く場を作るためには、産業団地の整備を進めるスペースを確保すべき。

(高橋弘委員)

・どこの企業も募集してもなかなか人が集まらないという状態がある。以前南陽高校には、情報経済学科が2クラスあったが、今ではすべて普通科になっている。この少子化の時代に、地元に残るような学科を作り、生徒・人材を残すのが重要。

(会長)

・同じような高校を作ると結局は山形市とかに流れてしまう。南陽らしい学科を作ることは非常に重要。AIやICT関連等、時代に合った学科を作るべきだと思う。

(事務局)

・産業系コースではないが、来年度から南陽高校では、新しく学科を新設するというではないが、地域に対してもっと目を向けてもらうことといえば、普通科の中で3年生に上がる時に「地域創生コース」を選択できるようになる。地域の取り組みやまちづくりについて探究を深め、総合的な探究の時間の延長線ということで、南陽市のことを色々知って、良さを知って、市としては将来につながるようにできる限り協力していく。南陽市のことを忘れないように、県外に進学した学生が戻ってきてくれるような取り組みを検討し実施していく。

(船山利美委員)

・市内高校定住意向(資料1-P24)について、「住みたい」「いずれ住みたい」と回答している人が約34%で、平成26年度調査の約44%から減少していると記載がある。その理由として、「買物や遊ぶ場がない」が上がってきている。実際に、南陽市の転出の大部分は10代後半から20代前半の世代となっていることから、「戻ってきたい」という意識が低下していると感じる。今後は、20代前半から20代後半の世代の転入の増加を図るために、どのような対策が必要かすぐに考えなければならない。

いかに人口減少を緩やかにするか、合計特殊出生率が大事。

(事務局)

・中学生にも同じアンケートを実施し、「住みたい」「いずれ住みたい」合わせて56.8%だった。高校生は34.1%であるため、減少していることがわかる。様々な思い出を作って「ここに住みたい」という気持ちがあり、また、中学生は地域の方との関わりが多いが、高校生に上がっていくとどんどん減っていくため、気持ちが薄くなっていっていると感じている。今後は地域との関わりをもっと意識して、市としても、働きやすい場所を作っていけるよう頑張っていく。

(竹田耕平委員)

・このアンケートは市から高校に依頼して実施したと思うが、回答している生徒の中には、市外在住も含まれているのではないかと。そうすると、詳細な分析ができないのでは。調査対象者を市内在住の高校生に限定すべき。

(事務局)

・おっしゃる通り。このアンケートは、市内在住の高校生だけではなく、市外在住の高校生も含まれている。今後直して実施していく。

(高岡亮一委員)

・今回の資料を拝見し、とても興味深い結果だったが、すべてがつかない。全体の結果は、何を指そうとしているか、全くイメージできない。振興審議会の役割として、これでいいのか、生きていく上で何が大事なのか、大きく考えていかなければならない。

(会長)

・KPIは部分最適。大きな夢の中で切り取って現在取り組んでいる。ご理解いただきたい。

(三坂英彦委員)

南陽市には、3カ月前に来た。正直、南陽市のイメージは、熊野大社と龍上海のみ。県内の人が実際にそう感じているというのを受け止めなければならないと思う。ただ、この3カ月実際に住んでみて、葡萄が盛んでワイナリーがある、果樹がある、温泉がある、唯一ないのが海だけだと思うくらい観光資源がたくさんある。市内の人が当たり前を感じていて魅力に気づけていない。「住みたい」というアンケート結果がなぜ中学生と高校生では20%も差があるのか、そこを分析して改善しなければならない。長男だから地元に戻らないといけない、という時代は終わった。今は、出ていくという認識から発想を変えて、魅力を発信して県外の人を呼び込むくらいの感覚で人口政策を立てないといけない。ここにとどまってくれというのは時代錯誤であり、優秀な人材は東京でも世界でも活躍してもらって、その人達に外の世界からアプローチをしてもらって、人口増加を図るべき。また、転入理由を明らかにし、そこを売りにしていけばいいのではないかと。

(松田典子委員)

・インターンシップ(資料2-P1-No.7)は、大学生が対象か。

(事務局)

・大学生に限らず、市内の企業にインターンした方すべての人。

(松田典子委員)

・中学生のインターンシップは実施しているのか。

(事務局)

・中学2年生で職場体験を実施している。一方で、南陽高校では授業としては実施していない。

(松田典子委員)

・知っているようで、自分が住んでいる街のことすべてを知っているわけではない。報道関係者だが、中学生がそういった体験をしていることは知らなかった。ぜひ、メディアを活用して、地元の中学生が地元の企業で職場体験をしていることを知ってもらい、同時に企業のPRにもなるので検討していただきたい。

(丸森周平委員)

・南陽高校ではインターンシップは実施していないということだったが、当社では高畠高校からインターンシップに来ていただいて、実際の就職につながった件もあった。強制的なインターンシップまでは求めないが、インターンシップできるような仕組みが南陽高校にもあったらいいと感じる。地元の企業で実際に体験することで、地元を知り、住みたいという気持ちが減少することはないと思う。

(中村和彦委員)

・51個の基本目標に係る数値目標は、南陽市独自に設定したのか。
・総合戦略は、全国的に策定しているのか。

(事務局)

・項目については、特に統一で定められているものではない。南陽市は、4つの基本目標を定めていて、目標を達成するため市独自で設定したもの。

(中村和彦委員)

・この51の目標がすべて達成した時に、何になるのか。南陽市であれば、農業、観光、スポーツなど大きく柱を分けて、例えば農業であれば、農作物をどうやって売なのか、結果どのくらい売れて県内外でどのような違いがあるのか、観光であれば、観光客はどのくらい来て、何を目的にしているのか、わかりやすくまとめて、南陽市の農業、観光はどのくらい発展しているのか、可視化できるようにした方がよいのではないかと。それを3年、5年続けていってはどうか。
・スポーツイベントに関しては、南陽市と言えばこれだなと言えるような象徴的なイベントを企画してほしい。

市は、日本体育大学と包括連携協定を締結している。市体育協会が日本体育大学に協力を求めても、協定を締結しているのは、協会ではなく市だからと断られてしまう。

(会長)

・国、県、市ではすぐ実行できない。市では、予算も権限もないため実行するのは難しい。意欲ある周りの人達で実行することで、よりよいものができるのではないかと考える。

(佐藤奈々子委員)

・地元に住んでいる方が、自分のまちの魅力を自信をもって言える地域づくりが大切。若い人たちはどうしても都会に憧れて一回は都会に出たいと思う気持ち理解できる。やはり、子育てをするときになったときに、自然が多いところで山を登ったり、様々な体験ができて、転んでみたり、痛い思いをしたり、そういう体験が、子供を育てると思っていて、その子育てがしやすいということに対して、結構女の人の権限が強いと思う。どこで子育てをしたいかというのは、ある程度女の人の好みで決まってくる、そうした時に、南陽市を選ばれる要素はすごく沢山ある。私も地元が大好きで、山形県、南陽市の魅力をどうにか発信できないかなと思ったときに、会長がおっしゃったように、行政にお任せするのではなく、地域の企業など皆で、それぞれが自分ごととして、地域貢献、社会貢献といった意味で、貢献意欲がある企業たちが集まって、色々な立場の人の知恵を集めれば、良い案が出てくると思う。そこに、ちょっと若い世代の方も入れて、「本気会談」みたいな、有識者もいて、そして若者もいて、皆でざっくばらんに話し合える場を設けることが必要だと考える。

(沖田志保委員)

・住みやすいと感じる人の割合 68.3%、これからも住み続けたい人の割合 69.8%(資料1-P8-No.41、42)ということで記載があるが、他市町村の数値はわからないが、この結果は悪い数値ではないと感じる。ただ、このアンケートの対象は誰か。

(事務局)

・18歳以上の幅広い年代の方800名が対象となっている。

(沖田志保委員)

・だとすると、7割近くの方は良いなと思っているということなので、決して悪い感じは受けなかったが、やはり若い人に限って言えば、出ていく人が多いと思う。ただ、正直他のところに住んでみないと南陽市のどこが良いかっていうのはわからない。ここに住んでいるところが当たり前で、悪いことばかり目についてしまって、良いところに関してはあまり気にしない。南陽市を出て行って、他で都会の暮らしを体験して、ただやっぱりずっとは都会にいけないと感じることがあって、ある時に地元に戻ってくる、これは決して悪いことではない。だから、出ていかないでというよりも、1回出て行って地元の良さがわかるという考えもあるのかなと思う。

・新規で全く南陽市に来たことがない人に関して、移住相談窓口への年間相談件数 147 件(資料1-P4-No.26)というのも良い数値だと感じて、ただ実際の県外からの新規移住者世帯数8件(資料1-P4-No.259)なのでこのあたりのギャップ、実際に実現しなかった理由、原因についての分析があると、改善すべきところがある

見えてくると思う。

(北澤茂男委員)

・昨年6月赤湯温泉に「湯こっと」ができた。これが順調に、県内外から様々な人が来てくれる。ここ3年はコロナ禍で地区の集まりがなかったが、公衆浴場という気軽に集まれる場を作っていただき感謝する。駐車場は広く、中は綺麗、バリアフリーでとっても良い場所なのでぜひもっと多くの人に来てほしいと思っている。
・人口減少について、子育てに力を入れるのはもちろんだが、高齢者の健康寿命を延ばす為のイベントを企画してほしい。

(山口正雄委員)

・観光に関連して、「山形おもてなしドライバー」というものに南陽市が載っていない。置賜では、白鷹町、米沢市、長井市が載っている。「おもてなしドライバー」とは、「山形の観光知識」と「接客などのおもてなし」の研修を受講し、認定試験に合格したドライバーのこと。今後、観光面で力を入れていく際に、こういったものも情報発信として大切になってくる。南陽市のタクシードライバーについても、ぜひ検討していただきたい

(竹田耕平委員)

・転入数を増加させるための課題(資料1-P28)について、観光の部分の交流人口を定着に向けるための課題を入れた方が良く考える。観光は観光、定着は定着と分けてしまうと、分母が小さくなってしまふ。例えば、米沢市と南陽市には自動車学校がたくさんあり、県外から合宿免許に参加する方がたくさんいる。その人たちに向けた取組を実施してほしい。実際に、南陽市の自動車学校に通った東京都板橋区の学生が山形新聞に投稿し、「南陽での出会い忘れない」というタイトルで記事になっていた。範囲を全国にして分母を大きくする。

・「サクラマス計画」を検討してほしい。(サクラマスは、ヤマメのうちに一旦海に下り、再び生まれた川に戻ってくる。)今南陽市に住んでいる人を大切にすることは大事なことだが、都会に行った人が帰ってこれるような環境づくりに力を入れるべきだと考える。そして、戻ってきた人たちと一緒に地域を支えることで、地元に対して誇りを感じると思う。

6報告 2)その他

意見等なし。

以上。